

学校行事参加型＋講演会型＋子育てサロン型（幼保園）

学校名	大垣市立日新幼保園
実施日時	平成28年10月13日(木)
会場	日新幼保園
参加人数	児童66名、保護者41名
学習課題(分野)	親子読み聞かせ、読み聞かせについて(講話)
運営者の願い	特別なことでなく、誰もが関心をもっている身近な話題を選んだ。「もっと読み聞かせをしてあげなくては」と思うものの、どんな本を、どんなふうに残らだらよいかを知りたいという声に応え、企画した。

学 習 の 内 容



<親子読み聞かせ>

「サンドイッチ、サンドイッチ」
「ちへいせんのみえるところ」

<講話>

3児の母として、幼稚園教諭や図書館職員として、長年読み聞かせをしてきた経験を交え、読み聞かせの大切さや本の選び方などを教えていただきました。

・子どもたちは、お父さん、お母さんにしてもらって読み聞かせが大好き。寝る前に、一人一冊、読み聞かせの時間をつけてほしい。

講師 園部啓子氏(大垣市図書館)

- ・静かに読み聞かせをすることで、穏やかな気持ちになれ、親自身が癒されることもある。
- ・子どもに読んでもらいたい本を選ばせると、選んだ本から子ども理解がより深まる。
- ・大人がよいと思って選ぶ本と、子どもが面白いと思う本はちがうこともある。子どもが喜んだ本を、親も子どもと一緒に楽しみたい。読み聞かせを通して、親に「子どもを見る力」を身につけてほしい。

<質疑応答>

Q 本選びは本人任せでよいか。

A まずは、本人の気持ちを尊重する。その後、週1冊でよいので、「ママ、これ読みたい」と入れていきたい。例えばゾロリシリーズだけの読書にならないように。

Q 読み聞かせでなく、昔話などの「語り」ではだめか。

A 週数回ならばよいが、ぜひ絵を見せて読み聞かせをほしい。また、省略や編集のないものを与えたい。読むときは原文そのまま読んでほしい。

<子育てサロン>

講話についての感想や各家庭でどのように読み聞かせをしているかを交流しました。読み聞かせのすばらしさを知り、わが子にもっと読み聞かせをしてあげようという思いを強くしたお母さんが多くいました。また、各家庭の様子がわが家の参考になったようです。

- ・隔週で父親と母親が本を借りてきている。
- ・上の子が下の子のために、本を借りたり、読み聞かせをしたりしてくれる。
- ・中1の子の読解力不足に悩んでいる。小さい頃、もっと読み聞かせをすればよかった。
- ・同じ本(種類)ばかり借りてきたけれど、これからは、子ども任せにしないようにしたい。
- ・自分だけに読んでほしいという子どもの気持ちには応えたいが、兄弟の扱いに悩んでいる。



<子育てサロンに参加して>

・「感想を交流してください」と言われたときは、「何言うの?」と思ったけれど、話し出すと盛り上がり、よその家の様子もわかってとてもよかった。

・こういう場をもってもらって、「うちだけじゃないのだ」と少し安心しました。普段はこういう話題で話すことはなかったので、とてもよかった。



ポイント

学習形態を組み合わせると効果が膨らむ。

保育参観後、親子で講師の読み聞かせを楽しみ、その後、保護者が残って講話を聞き、小グループで講話の感想を交流している。

長時間ではないが、それぞれの活動にメリハリがあり、より充実した学びとなった。



ポイント

講演会後の子育てサロンでは、役員の指示のもと、5～8人のグループがさっとできた。そして、感想の交流では、「はじめの声だし」を役員が行い、話し合いがスムーズに進むよう配慮されていた。

「うちの子もそうだったよ」という話を聞いて安心したり、「うちはこんなふうになっているよ」という話を聞いて「うちでもやってみようかしら」とやり方を修正したりと子育てサロンによりさらに、学びが深まっている。